

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	30 / 2011 / 17-23
タイトル	ハグロトンボが帰ってきた! 復活の兆しか?
著者名	室谷洋司

ハグロトンボが帰ってきた！ 復活の兆しか？

第10代 室 谷 洋 司

高度経済成長の波のなかで、私たちの身の回りから多くの生物が消えていった。ハグロトンボもその一つで、町でも田舎でも田圃の回りでも、あの漆黒の羽と独特な飛び方は真夏の風物詩として多くのかたがたの脳裏に焼き付いていることだろう。

ハグロトンボに限らず、ヤゴの時代を水の中で過ごすトンボ類の衰亡が激しい。青森県のトンボ研究の先達として知られる岡田一二三氏はつぎのように書いている。

「昭和25(1950)年以降に、トンボは毎年減少していった。それまで無かった塩素系の化学物質であるDDTやBHCが出て、更に強力なものまで出回り、その結果が害虫だけでなくトンボの激減にもつながった。(中略)塩素系化学農薬の製造・販売・使用が禁止され使われなくなると、徐々にトンボが復活してきたが、生息に適する環境の減少で昔のようにトンボが増えることはなかった。トンボの盛衰は、環境が良いか悪いかの指標になっていることが分かる(後略)。」(岡田、2006)

このようにしてハグロトンボは青森市など都市部の周辺から姿を消したが、上北郡六ヶ所村や平川市碓ヶ関などの小川にはずっと生き残っていた。2006年の夏、筆者は草原性で昼間に飛ぶベニモンマダラという美しいガの分布調査で八戸市郊外の新井田川の土手を歩いていた。するとニセアカシア林内の草上に、紛れもないハグロトンボがここにもあそこにも何匹も静止していたのである。川面ではないこの風景に一瞬、目を疑ったが、どうもこのトンボの生態には発生地を離れて避暑としゃれ込むといった習性も組み込まれているようである。早速、友人のトンボ研究家の高橋克成氏に連絡し後日、新井田川流域の調査となった。石手洗地区を手始めに上流にかけて各所でハグロトンボは住み着いていたのである。その後、弘前市周辺でも各所に発生地が確認された。それでは青森市ではいつになるのかと期待が膨らんでいた。

2009年になって「やぶなべ会」の石郷岡總一郎さんから、青森市安方の善知鳥神社近くのご自宅に黒い羽のトンボが迷い込んできたという連絡が入った。ついにハグロトンボが現れた、これだ!と周辺調査を試みたが、このときは成果につながらなかった。そしてことし(2011年)の夏、「やぶなべ会有志」が情報交換で多用しているメール交換で、つぎのようなやりとりがなされたのである。

2011年の「おハグロメール」

室谷(8月7日):高田でハグロトンボが!

皆さんお晩です。棟方さんのホームページ「青森の自然」で野内方面でのハグロトンボの観察・撮影を拝見しました。延べ何匹くらいいましたか? ホームページ「トンボの素顔」を閲覧すると、トンボ研究家の高橋克成さんも野内付近の小川で8月4日にハグロトンボを確認していますね。

小生は、きょう実家のある高田の田圃を流れる水路で1匹を確認、追っかけて周辺を探索しましたがメインの場所まで特定できませんでした。

観察データ:8月7日、16時半頃、小生の観察所がある海拔約40mの「果樹園・畑から森・草地に遷移したところ」から車が通れる程度の海拔35mほどの農道から空港通りに出ようと歩き始めたら、平行した田圃のU字溝(幅約30cm)に沿って急いで低空飛翔を東側にしていました。カメラでシャッ

ターを切りながら追跡し、約50mほどして個体は道路を横切り、北側の田圃に移って静止、ようやくキチンと記録できました。ほどなく早い飛び方で稲の上を西北の方向に飛んでいきました。まっすぐいけば「果樹園・畑・森」の高まったところと水田地帯の間あたりの水辺に行くはずです。実際の発生地探索はこれからのテーマです。

水質に敏感なトンボ類が、どこでもなく一部ですが、少しずつ見られるようになってきていることは嬉しいことです。開発が激しい関東圏でさえも、郊外の小流ではハグロがいるのに、青森地方での土地整備事業は極めて一面的で、一挙に金のかけた手法だと思いません。成虫の時期はおおむね8月いっぱいだと思います。確認記録を積み重ねていきたいものです。10数年前から、本種について注意してきていますが、県南とか津軽の南でいくつか生息地が出ていましたが青森はまだでした。

石郷岡さん、例の善知鳥神社の水辺を調べてくれませんか。数年前に目撃記録があつて再確認までいきませんでした。いよいよチャンス到来!です。

棟方啓爾(8月7日):野内では数百mで約10頭、感動しました。

お晩です。高橋さんと連絡を終えたところでした。幅1メートルくらいの小川でしたが、数百メートルの距離で10頭以上でしょうか。大変感動しました。

地図に道路が無いのですが、次から入り小川沿いの道路を東に進みました。

<http://watchizu.gsi.go.jp/watchizu.html?longitude=140.824083&latitude=40.853977>

室谷(8月7日):石郷岡さん、安方でもご注意ください

早速のご教示ありがとうございました。高橋さんとは数年前に県南で調査をしていました。青森地方でも復活の兆しは嬉しいことです。五十嵐さん、青森市西部での確認に期待しております。

実はおとし、石郷岡さんご自宅の窓から入ってきて、それが逃げて行ったという情報があり、実物を確認したいものと善知鳥神社から周辺を調べましたが、そのときは棲みかに到達できませんでした。小生のきょうの確認は1匹のみです。大きく見れば入内川水系ですが、あのコンクリートの本流ではどうしようもありません。そこに流入するどこかの流れが速くない堰だと考えています。

石郷岡總一郎(8月8日):2009年の観察記録の詳細は!

自宅内にハグロトンボが迷い込んできたのは、一昨年の「やぶなべ総会」が行われた頃(グダリ沼



[写真1] 高田のハグロトンボ目撃地の環境。道路右側の側溝沿いに手前から前方へ飛んで行った。



[写真2] 右側の側溝から道路を横切って左側の田圃に出ようとした。撮り逃がすまいとシャッターを切り続けた。トンボとその影。(8月7日16時30分)



[写真3] イネの葉に静止。すぐ飛び立ちイネすれすれに北西に飛び去った。(8月7日16時31分)

観察会が行われた頃)でした。捕獲しようと試みたとたん窓から外へ逃げられました。自宅近くの水辺は、善知鳥沼になりますが、基本的にここは止水に近い状態と思っています。沼の南端(龍神宮)から水は供給されていて、北側の排水溝から流れ出てはいますが、沼本体での流れはあまり感じられません。ハグロトンボは、流水域に生息すると聞いていますので、善知鳥沼での発生の可能性は少ないのではないかと考えています。また、沼には、コイやアメリカザリガニが生息していますので、それらの餌にならずに生き残る可能性も少ないのではないかと考えています。

自宅へ迷い込んだ個体は、どこか遠方からの飛来では無いかと思っています。ハグロトンボの飛翔距離が分かれば、発生地が可能かもしれません。ただ、安方周辺で生息の可能性が有りそうな流水域は思いつきません。(具体例は覚えていませんが、暗渠化された用水路が複数比較的近所を通っていた筈です。)その後、折を見て注視していますが、再確認はできていません。

安方でのハグロトンボ目撃のデータは、

日時:2009年8月2日 08:20頃 場所:青森市安方二丁目8番6号 天候:おそらく晴れ。

ハグロトンボを目撃した日、ちょうどグダリ沼観察会への往路、室谷さんと一緒でしたので、「今朝、羽の黒いトンボが迷い込んだ」旨の話を伝えましたところ、「近年、青森では記録がない」旨の事を聞きました。それ以来、安方近辺で注視していますが、その後の確認は有りません。

家人にこの事を告げると、その年の後日、「青森市の南の方(場所不明、荒川～横内～公立大付近まで含む広いエリアの何処か)で、羽の黒いトンボが何匹か飛んでいた」と、妻が知人から聞いたという伝聞を得ています。非常に不正確な情報ですが、付け加えておきます。

室谷(8月8日):ハグロトンボの習性、一時林内に移動することも

小生が高橋さんと八戸・新井田川での調査では、この大きな河川の緩やかな流れの岸辺に多数見られましたが、数日経ったらそこには見られず、近くの林の中に多く見られました。ハグロトンボの習性として発生間際には水域にいますが、一時林内などに移動することがあります。

このように、発生地の水辺をヒラヒラと緩漫に飛ぶ場合と何かの目的で早めに飛ぶ場合があります。こうなると相当の移動が可能になります。安方の場合、青森市街地の数少ない露出した流れとか、あるいはもっと遠いところから迷い込んだ可能性があります。こういうところに保存されていた環境が見つければ、さらに面白い材料を提供してくれるのではと思います。

五十嵐豊(8月9日):油川でも7月24日、29日に確認

ハグロトンボの記録がこんなに話題になるとは知りませんでした。遅ればせながら私の観察記録を報告します。

7月24日頃、自宅裏のU字溝(幅60cm)で1匹の羽の黒いトンボがヒラヒラ飛んでいました。時々静止するので、じっくり観察できました。少し小型なので、アオハダトンボかと思いましたが、兄貴の話でアオハダトンボは居ないとのことなのでハグロトンボと確認しました。翌日も同じ場所で見られましたが、その後は見られず、29日頃再び確認できました。いずれも午後で同じ個体のような感じでした。捕獲して確認しようとしたのですが、その後は見られませんでした。

この溝は数100m先で水田の排水溝に繋がっています。時々ドジョウが流れて来ていたので、この排水溝は年間をどうして水があるようです。その後、天田内川やその周辺を観察していますが、見つかりません。

室谷(8月8日):青森の各方面の復活の兆しに安堵!

御地においてもやはり!と安どしております。確かにアオハダトンボは県南の岩手県に近いところに継続的に生息しています(数は少ない)。また津軽の大鱈以南にもいくらかいるようです。県内では他にはおりません。

ハグロトンボの弘前地方での復活は、青森より少し早かったようです。5年前に市内を流れる土淵川で確認、その後、和徳、撫牛子、津賀野、藤崎で目撃例が出ているようです。青森市では、これまで安方、野内、高田、油川ということになりますが、野内以外は生息拠点が未知ということになります。



[写真4] 野内・貴船川のハグロトンボの生息環境。(8月15日、山道忠郎氏撮影)



[写真5] 川原の石の上に静止する2匹。(8月16日17時38分、山道忠郎氏撮影)

五十嵐正俊(8月10日):国際芸術センターの人工池でも目撃情報

昨日、「共生の郷」に行ったついでにコウホネのある水路を見ましたがハグロトンボは確認できませんでした。

小山内孝さんからの情報で、先月、合子沢の芸術センター青森の建物の構内にある人工池でも目撃できたそうです。笹森耕二さんも一緒に見ていたとのことでした。一言追加しておきます。

山道忠郎(8月16日):野内の貴船川で確認、撮影してきました

野内でハグロトンボの情報を聞き、この辺は土地勘があり貴船川周辺にもいると思い、昨日今日と行ってきました。川面を飛んでいるもの、露出した川底の石に止まったり、岸辺のヨシにとまったりでこの懐かしい風景に歓喜、撮影しました。この調子でどんどん広がってくれば良いと思います。

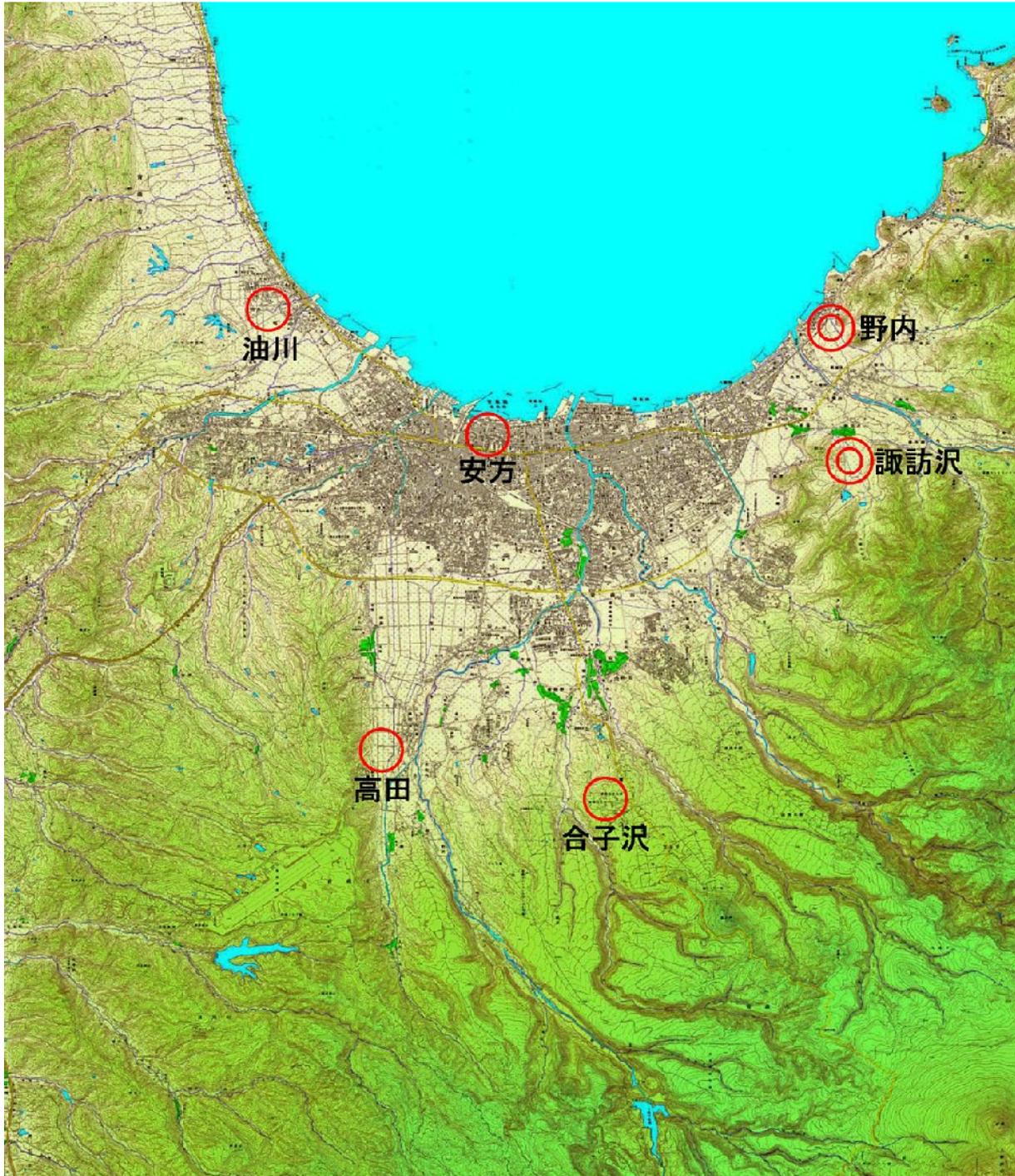
この後の、室谷の調査

8月20日、友人の古木誠さんと二人で広域調査をした。手始めに8月7日に高田で観察した場所を中心に田園、畑、沢筋の間の水路を見たがハグロトンボを発見できなかった。筆者が高校時代まで過ごした高田地区の中を流れている水路には昔、夥しい数が飛んでいたが、もしかしてと期待して見たがダメだった。

高田から南の山間に入り、小館、入内地区が流路になっている入内川は、集落の山手から下流まで歩いたが発見できなかった。この川は水質が良好なことで知られているが3面がコンクリート化され直線状に整備されてしまってから生物たちには住みにくい水環境になってしまった。土砂が溜まってよどみが生じているところなどに幾らかの期待がもてるのだが。

この後、高田から荒川を渡り合子沢や国際芸術センター青森の方向に移動し、主な川や水路を見て回ったが成果が出なかった。

8月21日、高田地区の西側、山手に接した細越地区は「ホタルの里」として住民ぐるみで保全活動をしているが、この周辺や田園地帯の水路を調べたが発見できなかった。



[図1] 青森市内のハグロトンボが確認された地域(2011年現在)
◎印は生息地、○印は移動個体の目撃あるいは近くに生息地があると推定される場所。この地図が◎印でいっぱいになることを願っている。

観察、確認地のまとめ

これまで述べてきた観察、確認地は上記に一部追加されたが、それらを時系列的に整理しておく。

1. 安方:市街地、善知鳥神社付近
2009年8月2日 1匹 石郷岡總一郎
2. 油川:中道の住宅地内の側溝
2011年7月24日頃と29日頃 2回観察したが同一個体かどうか不明。五十嵐豊
油川:野木和公園北側の水路

- 2011年8月9日 個体数は少ない 高橋克成
3. 合子沢:国際芸術センター青森の人工池
2011年7月27日 1匹 小山内孝
 4. 野内:貴船川周辺の狭い水路
2011年8月4日 複数個体 高橋克成
2011年8月7日 100m位の間で約10匹 棟方啓爾
2011年8月16日 複数個体 山道忠郎
 5. 高田:田園地帯の里山に通じる水路
2011年8月7日 1匹 室谷洋司
 6. 諏訪沢:諏訪神社付近から牛蒡畑堤に至る水路の各所
2011年8月10日 比較的個体数が多い 高橋克成

以上の各記録を分布図として図1にまとめた。確認したときの個体数とか環境状況から判断して、これからも継続して発生し生息地と見られる地区を二重丸(◎)で示し、個体数が1、2匹で発生地ではなく移動中の個体かも知れない場所を丸(○)で示した。目下のところ◎は野内と諏訪沢の2カ所、○は4カ所となる。後者については来年以降も継続調査をしてその動向を見守りたいものである。もちろん、これら以外の地区からも続々と生息地が出てくればハグロトンボの復活にさらに拍車がかかるものと思われる。

他のトンボの状況

今回の報告はハグロトンボ1種に限定したものであるが、幼生期を水環境に依存するトンボ類の多くは水質悪化とか水路整備などの環境変化によって衰退が余儀なくされてきた。ところが近年、一部に水質などの改善が見られ少しずつ復活が見られるようになった。

青森県では自然保護課内に「生物多様性保全対策検討会」を設置して、生物多様性の喪失が問題化した1990年代から調査活動を行ってきた。その結果として青森県版レッドデータブック(RDB)を作成し内外に公表した。県の方針は、これは一過性のものではなく調査は継続し2006年はレッドリスト(RL)、初版から10年後には2010年レッドデータブックを公表した。

動植物全般にわたって衰亡の傾向が年ごとに高まり、そのなかでも水環境に敏感なトンボ類は受難者として最たるものであった。表1に上記の2000年、2006年、2010年の3回のレッドデータブックに採択された種数とそのランクをまとめた。

青森県に生息しているトンボ類は2011年に確認されたアマゴイルリトンボを加えて79種となっている。このうち2000年時点では35種という半数弱が絶滅から最重要希少、重要希少、希少野生生物に採択されたのである。それも絶滅が2、最重要希少が17種という全くの“重症状態”であった。6年後には最重要希少から重要希少にランクを下げられた(生息地・個体数が増加傾向)種がいくつか見られ、さらに2010年時点では採択種が35種から30種に減り、多くの種にランク・ダウンが見られたのである。ハグロトンボは、最初(2000年)のAランクからCランク(2010年)まで下がり、復活傾向がさらに高まった。なお、生息状況が改善されたものが多いが中でオオセスジイトンボのようにCランクだったものがAランクに危険度が高まったり、新たにCランク該当種として採択されたヒメアカネなどもある。引き続きこれらのRDB種について慎重に見守っていく必要がある。

[表 1] 青森県レッドデータブック 2000 年～2010 年のトンボ類ランク変遷

ランク	2000 年RDB	ランク	2006年RL	ランク	2010 年RDB
EX	トラフトンボ ムツアカネ	EX	トラフトンボ ムツアカネ	EX	トラフトンボ ムツアカネ
A	カラカネイトトンボ コバネアオイトトンボ ハグロトンボ アオハダトンボ ミヤマサナエ ホンサナエ オナガサナエ ヒメサナエ メガネサナエ カトリヤンマ ヤブヤンマ ハネビロエゾトンボ キバネモリトンボ ハラビロトンボ ハッチョウトンボ チョウトンボ オオキトンボ	A	カラカネイトトンボ コバネアオイトトンボ アオハダトンボ ホンサナエ オナガサナエ ヒメサナエ メガネサナエ カトリヤンマ ヤブヤンマ ハネビロエゾトンボ キバネモリトンボ ハッチョウトンボ	A	カラカネイトトンボ コバネアオイトトンボ アオハダトンボ ホンサナエ オオセスジイトトンボ ヒメサナエ メガネサナエ カトリヤンマ ヤブヤンマ ハネビロエゾトンボ キバネモリトンボ ハッチョウトンボ
B	キイトトンボ ルリイトトンボ モートンイトトンボ コシボソヤンマ サラサヤンマ コヤマトンボ ショウジョウトンボ シオヤトンボ オオシオカラトンボ マイコアカネ	B	ハグロトンボ ミヤマサナエ オオキトンボ キイトトンボ ルリイトトンボ モートンイトトンボ コシボソヤンマ サラサヤンマ コヤマトンボ ショウジョウトンボ シオヤトンボ オオシオカラトンボ マイコアカネ	B	ミヤマサナエ オオキトンボ キイトトンボ コシボソヤンマ サラサヤンマ マイコアカネ
C	オオセスジイトトンボ ミヤマカワトンボ ヒガシカワトンボ カオジロトンボ リスアカネ ミヤマアカネ	C	ハラビロトンボ オオセスジイトトンボ ミヤマカワトンボ カオジロトンボ リスアカネ ミヤマアカネ タイリクアカネ オオカワトンボ	C	ハグロトンボ ハラビロトンボ コヤマトンボ カオジロトンボ オナガサナエ ルリイトトンボ モートンイトトンボ ショウジョウトンボ オオシオカラトンボ ヒメアカネ
		D	チョウトンボ		

ランク説明: EX=絶滅野生生物、A=最重要希少野生生物、B=重要希少野生生物、C=希少野生生物、D=要調査野生生物

種名のうちゴシック表示について:RDBの前編(2000年版)に比べランク変更した種で、2010年版ではオオセスジイトトンボがランク上昇、ヒメアカネが新規採択で、ハグロトンボなど多くがランクを下位に変更された

本報告をまとめるに当たり、トンボ研究家の高橋克成氏に多くの情報をいただいた。また調査に同行いただいた古木誠氏、種々の情報をお寄せくださった「やぶなべ会」会員諸氏に心よりお礼を申し上げる。

文 献

青森県(2000)青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック-。
 青森県(2006)青森県の希少な野生生物-青森県レッドリスト(2006年改訂増補版)。
 岡田一二三(2006)青森県の蜻蛉今昔。「青森県のトンボ」(青森県トンボ研究会編):177~179。
 青森県(2010)青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック(2010年改訂版)。